３学会共催シンポジウム

都市縮退の時代に持続する郊外をいかにつくるか

本格的な人口減少時代に向けて、単なる縮退ではなく、コンパクトでサスティナブルな都市づくりが期待されている。「シュリンキングニッポン－縮小する都市の未来戦略」「『都市縮小』の時代」「人口減少時代における土地利用計画－都市周辺部の持続可能性を探る」など関連書も出版され、議論も盛んになっている。

日本建築学会東海支部都市計画委員会、日本都市計画学会中部支部、都市住宅学会中部支部が共催する本シンポジウムで、コンパクト化を進める際に、忘れられがちな郊外の住宅地や土地利用の開発と縮小のあり方を考える。

日　時：２０１０年１１月２９日（月）１８時～

基調講演：柳沢　厚氏（C-まち研究室代表）
「柔らかい郊外の土地利用制度～安曇野のまちづくり条例の顛末」
パネリスト：
海道清信氏（名城大学、持続する都市構造）
村上　心氏（椙山女学園大学、団地再生）
浦山益郎氏（三重大学、持続的な郊外土地利用）
司　会：浅野　聡氏（三重大学）

会　場：名城大学名駅サテライト　多目的室（定員100名）
〒450-0002　名古屋市中村区名駅3-26-8
名古屋駅前SIAビル13階　　TEL(052)-551-1666

主　催：日本建築学会東海支部都市計画委員会、日本都市計画学会中部支部、
都市住宅学会中部支部

備　考：無料（事前予約の必要はありません。直接会場にお越し下さい）
問　合：浦山益郎（tel:059-231-9443, e-mail:urayama@arch.mie-u.ac.jp）